

トカゲ(කටුස්සා カトゥッサ)の死体を帰宅中に発見。大型のものやカラフルなものなど日本にはない爬虫類がたくさんいる。

エネルギー බලශක්තිය (パラシャクティヤ)

みなさんコホマダ? ケゴールでは5月後半から6月にかけて毎日雨が降り、夜は決まって停電。短時間の停電にはもう慣れっことですが、毎日となるとさすがに不便でした。夜は、本を読むこともパソコンをすることもできず、トイレに行くのも至難の業。水をできるだけ飲まないようにして「電気よ来い。」と祈るのみ。たいてい祈りは届かず朝が来るといった毎日でした。スリランカの雨季の私の生活はこんな有様でしたが、昼も夜もなく忙しい毎日過ごしている日本人にはうらやましく聞こえるかもしれません。めったに停電もおこらず、安定した電気を供給している日本の方がここにいる私にとっては不思議に感じます。

■スリランカのエネルギー事情

石油・石炭などのエネルギー資源に恵まれていないスリランカにとってエネルギー問題は深刻です。スリランカのエネルギー源は木材によるもの半分、そして残りは石油と電力によるもの。



↑田舎には必ずあるかまど。

木材は、ゴムの木や作物の廃棄物(皮をはいた後のシナモンの枝、ココナツの殻・葉)、木くすなど。まだ台所にかまどがある家も多く、そこではこれらのものが薪として利用されています。しかし都市部ではLPGがかなりを占める。

石油は全部輸入。車の増加や火力発電の増加によって石油の需要も増大しました。最近、ガソリンの値段が一気に高くなりましたが、日本でそうでしょうか。半年前1Lあたり70ルピー(約88円)だったガソリンが今では93ルピー(約116円)。同時にバスの運賃も大幅にアップし、国民の負担が大きくなりました。

電力は、水力発電(48%)と火力発電(52%)が大半を占めます。水力発電はスリランカの自然(大量の雨と山の存在)のおかげでなりたっているもの。火力発電は電力消費量の増大に伴って不足分をまかなうためとどんどん増えています。しかし火力発電には石油(または石炭)が必要。高価で価格変動の大きい石油に頼ることで国民の負担は今後ますます増えそうです。

■スリランカと日本を比較

エネルギー消費が増えているスリランカですが、日本と比較してみると以下のとおり。

	【スリランカ】	【日本】
1人当たりの電力消費量 (KWh)	305	7,606
1人当たりの石油消費量(バレル/年)	1.4	15.6
1000人当たりの自動車台数(台)	12	492
1人当たりのGDP(米ドル)	850	32,600

エネルギーへの依存度は日本人の方がずっと大きいですね。エネルギーがなくなってパニックに陥るのは日本の方だといえるでしょう。この数値から色々なことを感じてほしいと思います。

(上は2000-2001年のデータ)

スリランカにある世界遺産パート1

スリランカにある世界遺産をひと目見ておきたいと焦っている今日この頃。スリランカには、たくさんの仏教遺跡、植民地時代の要塞、熱帯雨林などがあり、計7件も世界遺産が登録されています。今回はそのうちの1件、シーギリヤを紹介します。

■シーギリヤ 一人間の野望と悲しみに満ちた世界遺産一:



↑カーシャパが頂上に王宮を立てたシーギリヤロック。



↑頂上(王宮跡)からの眺め。



↑岩山の中腹には、美女たちの壁画が一面に描かれた洞窟がある。

→手すりなしがみつかながらも、頂上の王宮跡を見るため岩山を上る人々。

5世紀後半、カーシャパという王子がいました。この王子、自分が自分の低い母との間に生まれた子であったため、腹違いの弟(王族の血筋の母)が王位を継承することを恐れて父(王様)を殺し、弟をインドへ追いやり、強引に王の座に付きましました。そして高いシーギリヤ岩山の頂上に王宮を建てたのです。

このシーギリヤは高さ195m。見ての通り断崖絶壁で岩上は強風が吹き、はしごが付いた今でも恐怖に足を震わせ上るほど。当時、食糧の入手や使者の行き来などに、どんなに労を要したか。結局このカーシャパ王、11年後に弟の復讐に遭い、首を切って自害しました。

シーギリヤ頂上にある王宮跡に立って下を見下ろすと、ドライモンスーンゾーンならではの背の低い森林がどこまでも広がっています。カーシャパ王は1500年前どんな気分でここから下界を眺めたのでしょうか。今では、孤独な狂気の王として人々に語り継がれています。

■「世界遺産」って何?

ところで『世界遺産』って何でしょう? 「誰が」「何の目的で」「どのようなものに対して」定めるか知っていますか? 私は今回初めて調べました。でも答えはヒミツ。情報が溢れている日本、自力で調べましょう。さらに、「日本にある世界遺産は何?」と、これも初めて調べた私。日本にある11件の世界遺産のうち、まだ行ったことのない箇所が5ヶ所もありました。

今、太陽が北に昇る。理科の授業

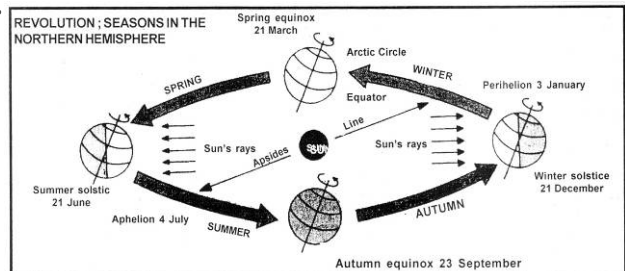
灼熱の太陽が降り注ぐこの熱帯の国では、できる限りの日焼け対策が必要。バスの中でも然り。ケゴール(東)からコロombo(西)へ向かう長距離バスに乗る時にも考えて座る。「右側が北だから陽が当たらない。右側の席に座ろう。」と。ところが、最近何か違う。北から陽が差し込んできます。そこで初めて気づきました。「今、太陽が北に昇っている。」

「北半球では太陽は南へ昇り、南半球では北に昇る。」これは常識です。が、これはすべての場所・時期に当てはまることではありません。北半球についていうと、赤道と北回帰線(北緯23.27度)の間に位置する地域では、夏(いわゆる夏至6月21日前後)の間、北側に太陽が昇ります。実は初めて気づきました(理科の教員として笑えない)。

地球の地軸は公転面に対して23.4度傾いています。そのため、昼の長さや太陽高度が変化し、季節の変化が出てきます。赤道に近い北緯7度に位置するスリランカでは、太陽の通り道が1年中通してほぼ真上。真上といっても1年の大半(春・秋・冬)はやや南側を通りますが、夏にはやや北側になるのです。日本でも夏の太陽が冬よりずっと高く昇るように季節によって太陽の通り道は違ってきます。図を描かないとピンと来ないと思います。右の様な図を描いて考えてみましょう。難しい? 中学校レベルです。ちなみに太陽高度を求める計算式がありました。

太陽高度 = 90度 - (観測地の緯度) + (地軸の傾き)

地軸の傾きは、夏至には23.4度、冬至には-23.4度です。日本(南稜高校)はおよそ北緯32度に位置しています。6月21日(夏至)の南稜高校での太陽高度はどうなるのでしょうか。計算で求めることができますね。ちなみにこの日スリランカでは106.4度となりました。つまり北側に太陽が昇ったことが計算からも出てきました。



☺南稜高校では81.4度